



科研費公募説明会

学習院大学研究支援センター2025年8月

v801

科研費 制度概要

JSPS科学研究費助成事業等説明会「資料1」
https://www.jsps.go.jp/file/storage/kaken_g3685/r7_siryou1.pdf
 より抜粋)

科研費の各研究種目の役割と全体構成

○ 研究者のキャリアアップ、研究テーマの進展に応じて、自らが**挑戦**できるよう、研究種目を設定。

国際共同研究の支援

「国際共同研究加速基金」

国際社会における我が国の学術研究の存在感を向上させるための国際共同研究や海外ネットワークの形成を促進

国際先導研究

【～5億円、7年（10年まで延長可）】

国際共同研究強化

（旧：国際共同研究強化（A））
【～1,200万円、～3年】

海外連携研究

（旧：国際共同研究強化（B））
【～2,000万円、3～6年】

帰国発展研究

【～5,000万円、～3年】

若手研究者の支援

「若手研究」種目群

若手研究者に独立して研究する機会を与え、研究者としての成長を支援し、「基盤研究」種目群等へ円滑にステップアップするための種目群

学問分野の深化・発展の支援

「基盤研究」種目群

これまでの蓄積に基づいた学問分野の深化・発展を目指す研究を支援し、学術研究の足場を固めていく種目群

基盤研究(S)

【5,000万円～2億円、5年】

基盤研究(A)

【2,000～5,000万円、3～5年】

基盤研究(B)

【500～2,000万円、3～5年】

基盤研究(C)

【～500万円、3～5年】

真に優れた研究の重点支援

特別推進研究

【～5億円、3～5年】

（二重枠線は基金化種目）

新領域開拓の支援

「学術変革研究」種目群

斬新な発想に基づく研究を支援し、学術の体系や方向の変革・転換、新領域の開拓を先導する種目群

学術変革領域研究(A)

【5,000万円～3億円/年、5年】

学術変革領域研究(B)

【～5,000万円/年、3年】

挑戦的研究(開拓)

【500～2,000万円、3～6年】

挑戦的研究(萌芽)

【～500万円、2～3年】

令和7年度から
公募停止

令和5年度から
新たに基金化

特別研究員奨励費

【～450万円、～3年】

研究活動スタート支援

【～300万円、～2年】

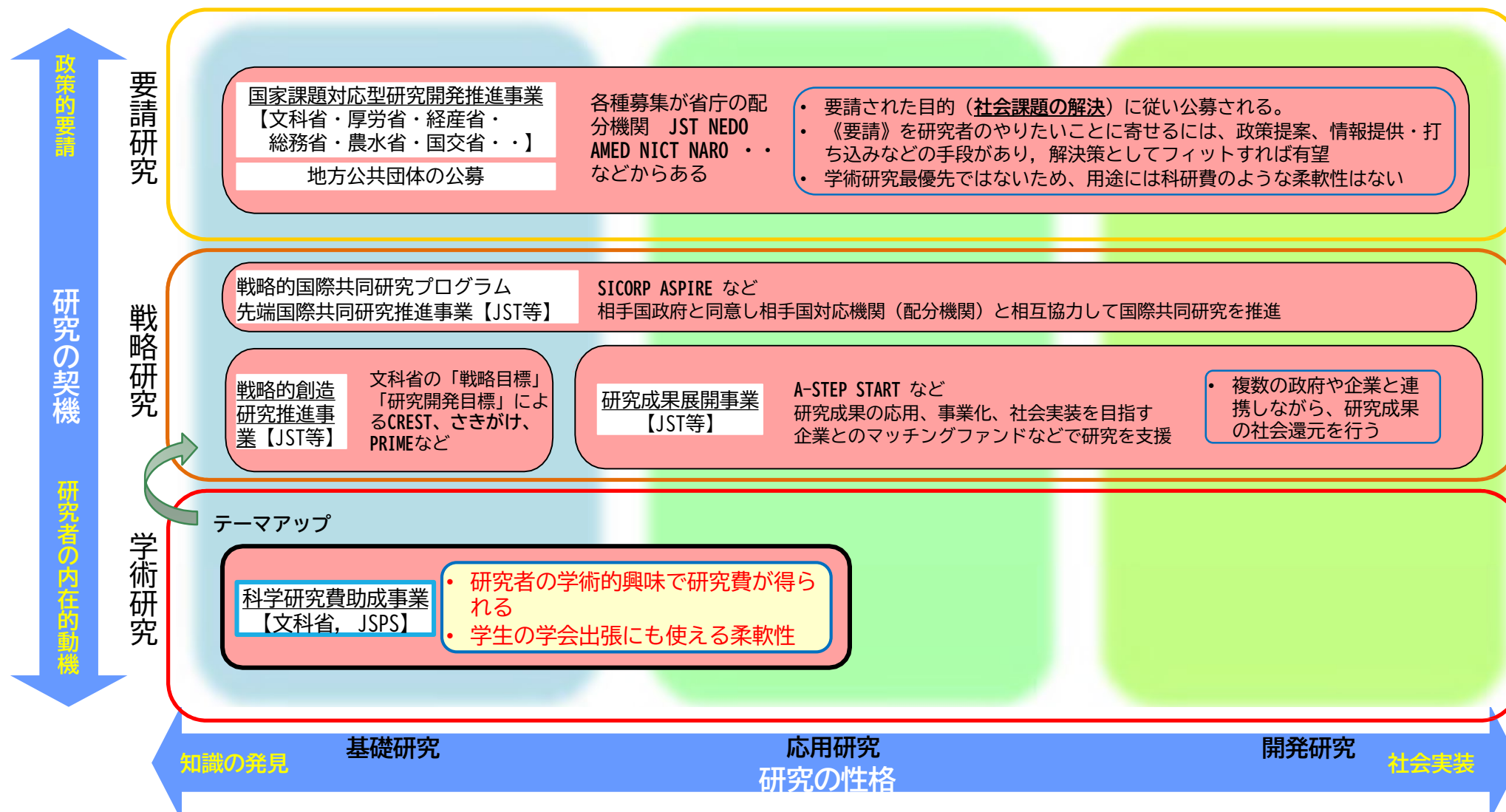
若手研究

【～500万円、2～5年】

研究の発展（ステップアップ）

研究の広がりや多様性（件数）を確保

公的研究費マップ（科研費の位置づけ）





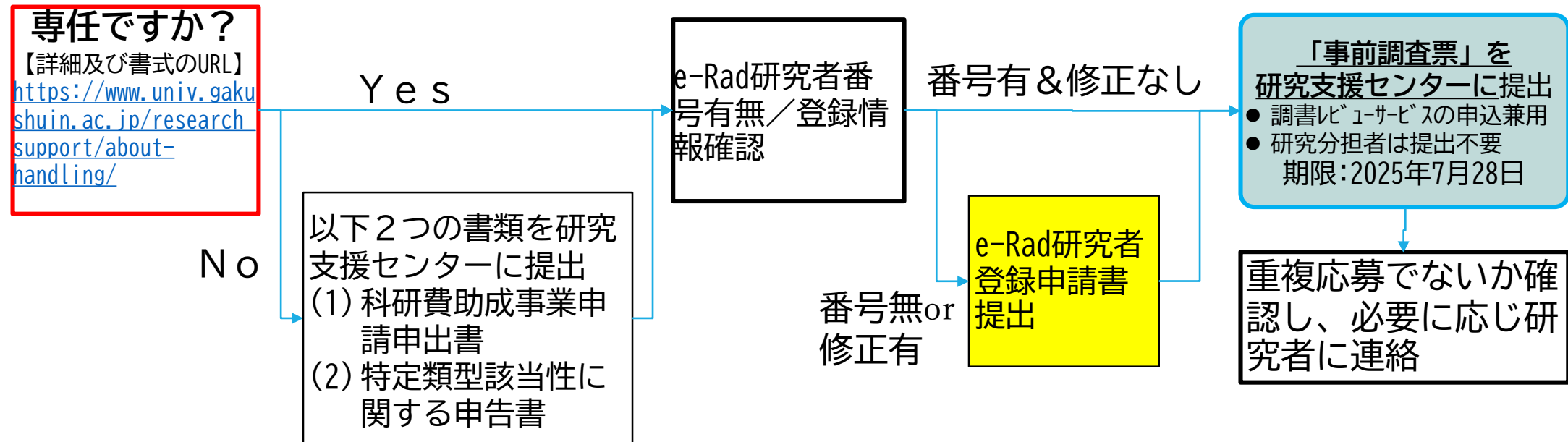
最新の変更点

- 新たに「基盤研究（A）」の調書をカラー化、PDFで審査されます。
- 基盤研究（B）（C）、若手研究、挑戦的研究（開拓、萌芽）は、従来通りのモノクロ印刷で審査されます。
 - 既にカラー化された種目は「学術変革領域研究（A・B）」、（A）（公募研究）」、「特別推進研究」、「基盤研究（S）」「研究活動スタート支援」、「国際先導研究」、「国際共同研究強化」、「帰国発展研究」

ここ数年での変更点

- 「研究目的、研究方法など」
 - R7公募より小項目の変更があります。
- 研究課題の国際性に関する評定要素
 - 基盤研究(A)(B)(C)に追加された評定要素
- 研究インテグリティ誓約
 - あらかじめe-Radにログインして研究インテグリティの誓約を行っておく必要あり
- （採択後の操作ではありますが）研究代表者及び研究分担者全員が「安全保障貿易管理情報」を登録していない場合、支払請求書を送信できなくなりました。）

科研費応募手続き①



科研費応募手続き② 電子申請システムでの操作

調書作成 電子申請システム ログイン
<https://www-kaken.jps.go.jp/kaken1/shinsei/logon.do?4c2bf78e=cqDtkdK5D64u8rri8y9Pl6iZ8d6TErzLHbSN>

- 1.申請者情報入力
- 2.調書作成
- 3.研究分担者承諾手続
(分担者を設定できる種目のみ)

「分担者」関連手続を
まずはお済ませください

- ・ご自身が研究代表者として、研究分担者を依頼する手続は、

<https://www-shinsei.jps.go.jp/kaken/topkakenhi/download-ka.html>
の、
https://www-shinsei.jps.go.jp/kaken/docs/buntan_flow_D.pdf
のマーカ一部分をご覧ください。

- ・研究分担者となる方にいただくことは
https://www-shinsei.jps.go.jp/kaken/docs/buntan_flow_B.pdf
のマーカ一部分をご覧ください。
(ご自身が研究分担者となる場合もこの手続となります)

申請者の作業

- ・操作の手引

<https://www-shinsei.jps.go.jp/kaken/topkakenhi/download-ka.html>
の、

<https://www-shinsei.jps.go.jp/kaken/docs/manual1ka.pdf>

- ・操作の体験版は、

https://www-shinsei.jps.go.jp/kaken/kakenhi_taiken/index.html

ここで本当の登録は出来ませんが、ページの遷移がわかります

- ・研究支援センターへの提出方法

- (1)[応募情報又は研究計画調書の確認]ボタンをクリックしてPDFファイルをダウンロードし、内容を確認してください。
- (2)ダウンロードしたPDFファイルの内容に不備がなければ[確認完了・提出]ボタンをクリックしてください。研究支援センターに提出されます。

申請書提出学内締切
2025年9月2日（火）

研究支援センターでチェック、必要に応じて
「却下」／「再提出」

JSPSに「提出」

2025/9/16にJSPSに提出
(本締切2025年9月17日(水)
16:30)

学内締切が滞ってしまうケース

- ・研究インテグリティのチェック【参考URL】

https://www-shinsei.jps.go.jp/kaken/docs/research_integrity_e-rad_touroku_2024koubo.pdf

e-Radで、研究者ご自身でチェックをお願いします。
<https://www.e-rad.go.jp/>

却下・再提出のケース

- 申請者より、誤記の修正、内容改善の希望や、調書レビュー等のサービスに従っての修正があるときに「却下」します。
- 研究支援センターより指摘事項あるとき：
 - 形式に従っているか、記号・図番・序数の不整合はないか。
 - 経費等の費目や説明の記載不備
 - 研究内容の記述の改善の提案など

★申請者にご連絡し、ご希望があれば「却下」して、再提出していただきます。

- 再提出には以下の手順が必要です。
 - (1)[応募情報又は研究計画調書の確認]ボタンをクリックしてPDFファイルをダウンロードし、内容を確認してください。
 - (2)ダウンロードしたPDFファイルの内容に不備がなければ[確認完了・提出]ボタンをクリックしてください。研究支援センターに提出されます。

科研費応募に関する事前調査票

- 学内締切時刻・本学より、研究計画調書をJSPSに送信する予定時刻を示しました。
- JSPS締切時刻より前に設定してあります。
- 応募種目を3つまで記入可能としました。

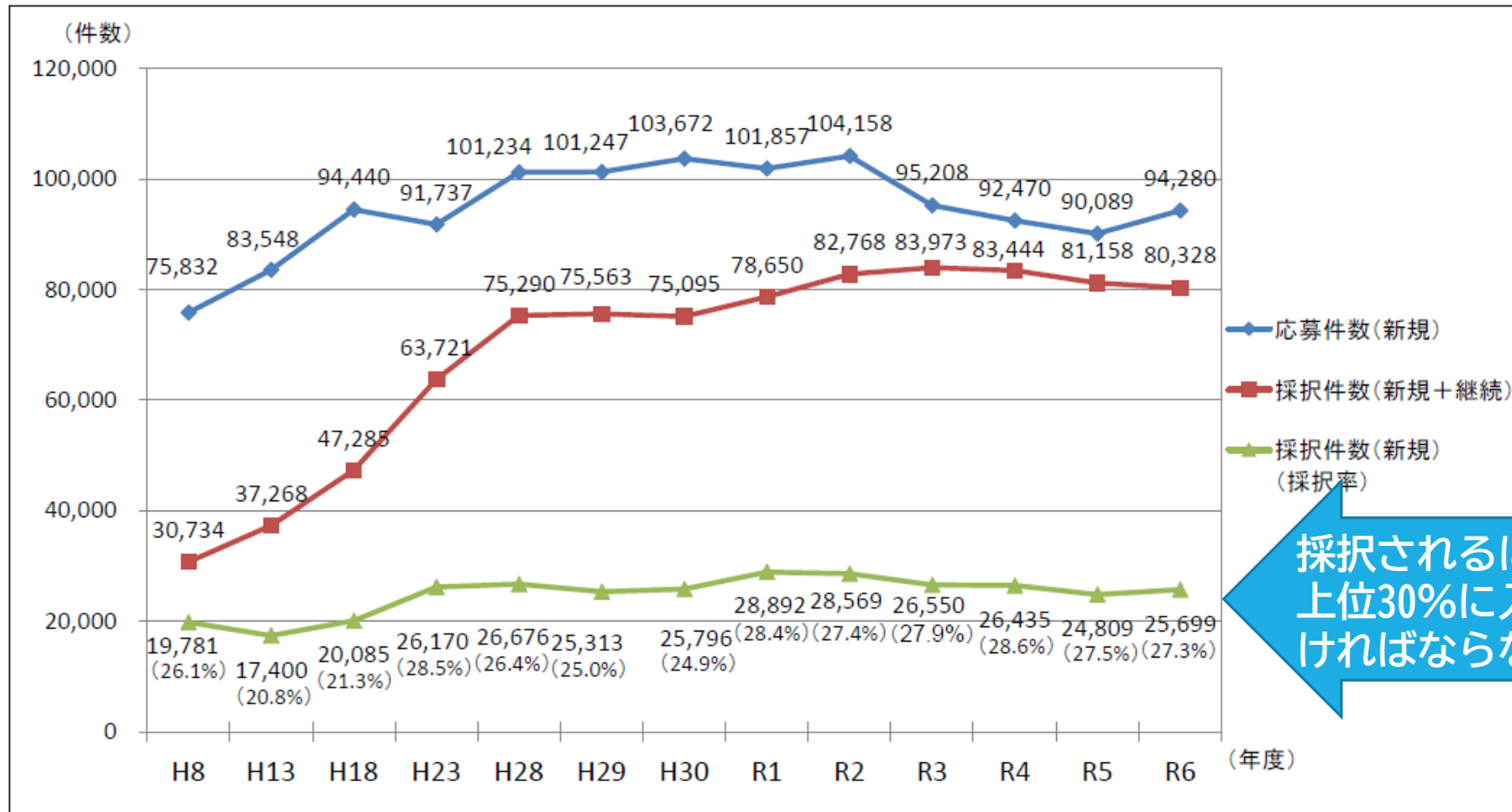
科研費応募に関する事前調査票		
宛先 kakenoff@gakushuin.ac.jp		
この調査票は、応募資格や重複応募をチェックします。 応募希望者は必ずこの調査票をEメールにて事前に送信して下さい。 ※この事前調査票では、研究代表者や研究分担者として継続している種目に応じた重複制限、新規に研究が担者となる場合の重複制限、他の資金源との重複受給制限などのチェックはできませんので、各公募要領での重複制限のご確認をお願いいたします。		
該当種目（2026年度：学変A公募・基盤ABC・若手・挑戦的（開拓・萌芽）・研究成果公開促進）この他の種目の締切等は別途設定されます。	学内締切	2025/9/2
	本学より送信予定	2025/9/16
	日本学術振興会締切	2025/9/17 16:30
所属		
職名		
姓		
名		
Eメール		
内線		
応募種目1		
応募種目2		
応募種目3		
応募種目に若手研究を含む場合	博士学位取得年月日	
	(要確認) 博士学位取得年月日がe-Radに正しく記載されていますか？	
応募種目に研究活動スタート支援を含む場合	経緯説明書の提出が必要ですか？	
研究成果公開促進費		
研究成果公開促進費のうち研究成果公開発表と国際情報発信強化は、大学から応募できません。所属学会や学術団体からの応募をお願いします。		
e-Radのアカウントをお持ちですか？		
①お持ちでなければ「e-Rad研究者登録申請書」を提出してください。なお、e-Radアカウントの新規登録から科研費電子申請システムで申請が可能になるまで2週間程度かかりますのでご注意ください。 ②既にお持ちの方はe-Radにログインし、本学に所属する研究者として、ご自身の情報が正しく登録されていることをご確認ください。修正・変更が必要であればその旨を記載の「e-Rad研究者登録申請書」を提出してください。 ③申請可能な期間に入ったら、科研費の電子申請システムにログインしても調書の作成が開始できない場合はご連絡ください。		
ロバスト・ジャパンの研究調書レビューサービス※を希望しますか？		
※ロバスト・ジャパンは民間URA組織です。スタート支援、基盤（B・C）/若手/挑戦的研究を対象に調査にレビューを返します。レビューの返却には最長で1週間かかります。先着順でレビューサービスが受けられます。		
応募した科研費が採択された場合、希望した学内研究者のみに研究計画調書の研究支援センター内での閲覧を許可してもよろしいですか。		
応募した科研費が不採択だった場合、審査結果を研究支援センターに提供していただけますか。※		
※支援が適切だったかどうかを検討し、今後のより効果的な研究者への支援のために研究支援センター内のみで使い、研究支援センター外には一切提供いたしません。		
本学のURAによるチェックをうけたくない方はここにその旨ご記載ください。		
特別な手続きが必要、または科研費の取り扱いに関しご意見ご要望などあればご記入ください。		

科研費の主な研究種目における応募件数、採択件数、採択率の推移

採択されるために①

①科研費 応募件数、採択件数、採択率の推移 応募件数、採択件数、採択率の推移
(令和6(2024)年12月25日更新)

https://www.jsps.go.jp/file/storagede/kaken_27_kdata_g_3438/2-1_r6.pdf



採択されるには、
上位30%に入らなければならない

令和6年度においては、「特別推進研究」、「新学術領域研究(研究領域提案型)」、「公募研究」、「学術変革領域研究(A)」、「計画研究及び公募研究」、「学術変革領域研究(B)」、「計画研究」、「基盤研究」(特設分野研究を除く)、「挑戦的研究」(特設審査領域を除く)、「若手研究」、「研究活動スタート支援」及び「国際共同研究加速基金(国際先導研究及び海外連携研究)」について集計・掲載。

採択されるために②

【基盤研究B・Cの評定要素】の構成

A. 研究計画の内容に関する評定要素

(1) 研究課題の学術的重要性

- ・ 学術的に見て、推進すべき重要な研究課題であるか。
- ・ 研究課題の核心をなす学術的「問い」は明確であり、学術的独自性や創造性が認められるか。
- ・ 研究計画の着想に至る経緯や、関連する国内外の研究動向と研究の位置づけは明確であるか。
- ・ 本研究課題の遂行によって、より広い学術、科学技術あるいは社会などへの波及効果が期待できるか。

(2) 研究方法の妥当性

- ・ 研究目的を達成するため、研究方法等は具体的かつ適切であるか。また、研究経費は研究計画と整合性がとれたものとなっているか。
- ・ 研究目的を達成するための準備状況は適切であるか。

(3) 研究遂行能力及び研究環境の適切性

- ・ これまでの研究活動等から見て、研究計画に対する十分な遂行能力を有しているか。
- ・ 研究計画の遂行に必要な研究施設・設備・研究資料等、研究環境は整っているか。

A：各要素4点満点／(1)(2)(3)は相対評価で採点される

評点区分	評定基準	評点分布の目安
4	優れている	10%
3	良好である	20%
2	やや不十分である	40%
1	不十分である	30%
利害関係があるので判定できない		—

採択率（約30%）からくる、ボーダーライン
1点や2点がつくと、採択は難しくなる。

採択のためにはどの要素でも取りこぼしなく高得点を！

B. 研究課題の国際性に関する評定要素

・ 本研究課題の遂行によって、国際性（将来的に世界の研究をけん引する、協同を通じて世界の研究の発展に貢献する、我が国独自の研究としての高い価値を創出する等）を発揮することが期待できるか。

※若手研究には国際性に関する評定要素はありません。
その他の種目には異なった基準があります。

B⇒4点満点・絶対評価

評点区分	評定基準
4	大いに期待できる
3	期待できる
2	概ね期待できる
1	あまり期待できない
利害関係があるので判定できない	

採択されるために③ 新規評定要素：国際性の表現方法

●審査員に伝わらない悪い例

⇒単なる羅列

- 各国では、〇〇、□□、△△、などの研究が行われている、しかるに私は▽▽▽の方法により研究を進めている・・・など
- 国際性の低い論文誌への掲載など。

◎審査員に伝わる良い例

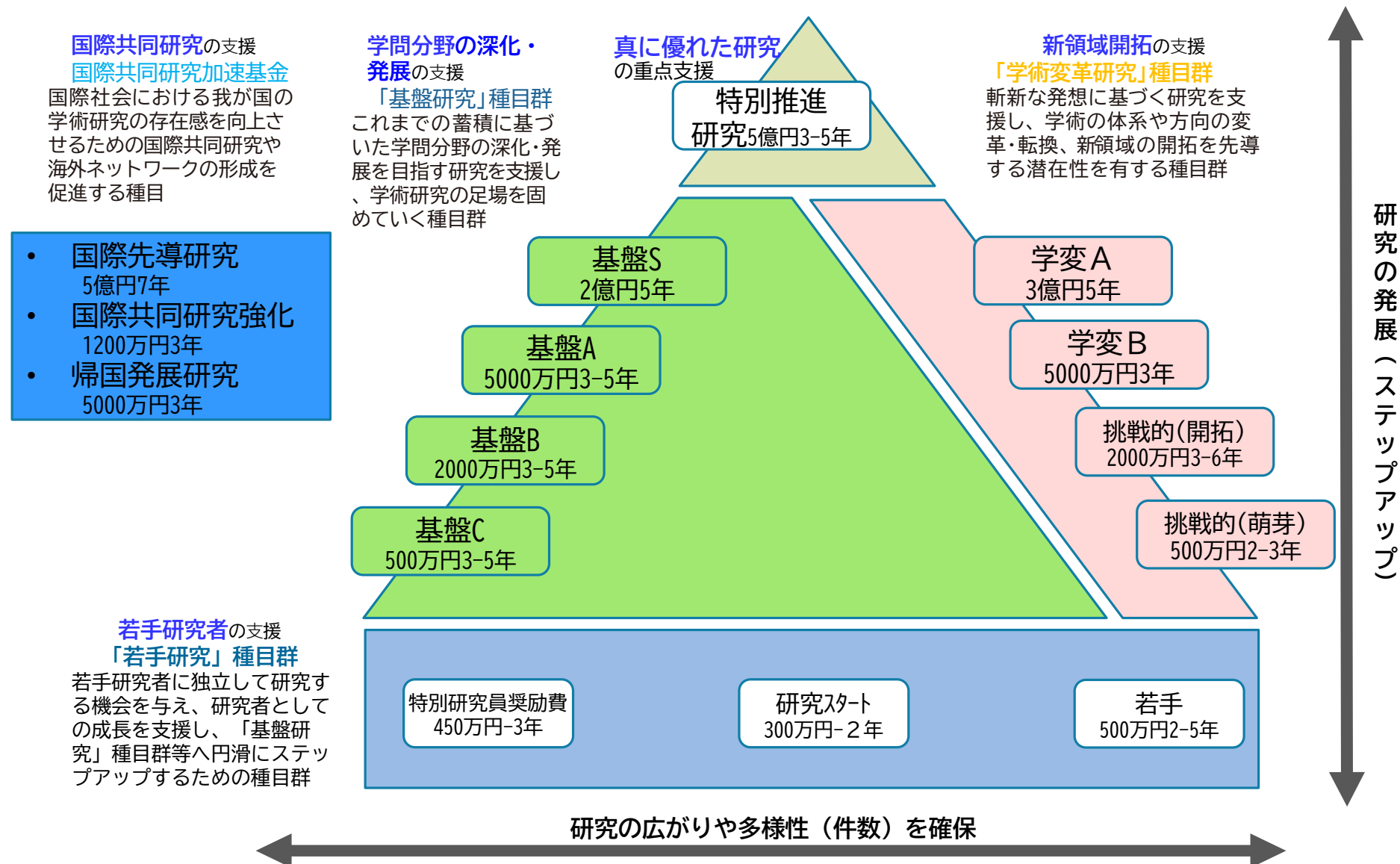
⇒世界をけん引する「トップランナー」であることを客観的に示す。

- 国際的な先導研究または共同研究のリーダーをしている。
- インパクトファクターの高い雑誌に論文掲載
- インパクトファクターの高い雑誌からレビュー論文の依頼
- 国際的学術賞、ポスター賞などの受賞歴
- 国際的な学会の招待講演
- 国際的なシンポジウムのプレナリートーク
- 国際共著論文
- 外国研究機関からの招へい
- 国際的な論文からの被引用
- ◆ 日本固有の文化等の研究や、国内での研究活動のみの場合
 - 国際的な注目を集めている、国際的に学術的な価値が高い、国際的に解決を求められる（貢献できる）課題である、など独自の研究での高い価値を示す客観的な評価、反響
 - 世界史的、地理学的にみた本研究の位置づけと、日本で研究を進める意義を示す
 - 国外の研究者の問い合わせ、来訪などに対応した活動での客観的な評価・謝辞など

採択されるために④

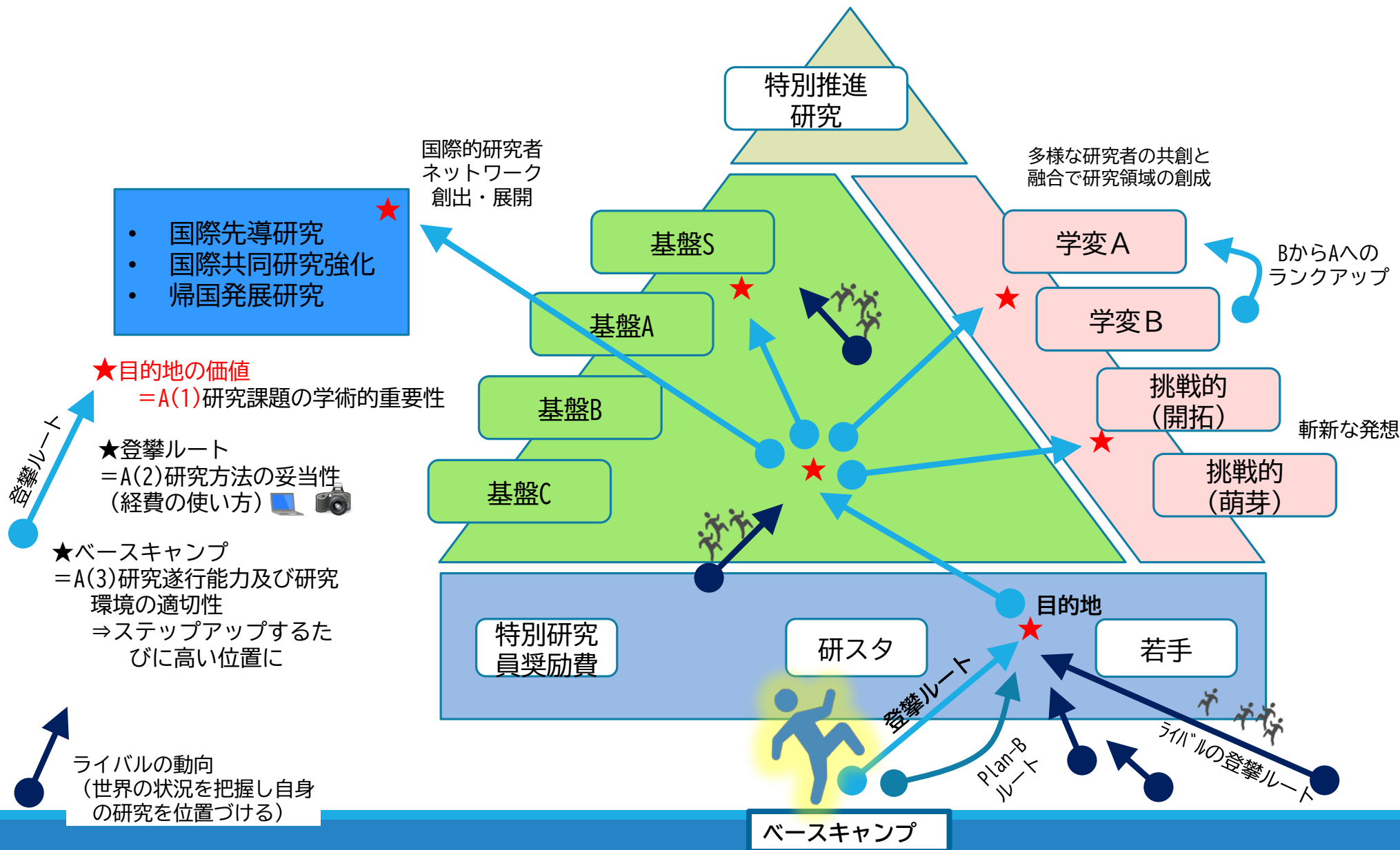
評定要素から導く、科研費調書の姿①

科研費パンフレットより改変



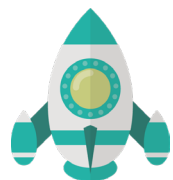
採択されるために⑤

評定要素から導く、科研費調書の姿②
科研費調書＝スポンサーに提出する登山計画書



審査員
スポンサー（国民）から選択を依頼されている。「素晴らしい成果を適切に出せそうな人に研究費をつける」

【応募する種目の選び方】



スタートアップ

- 基盤C
 - 手堅く500万円
 - 若手研究
 - 採択率高い
(学位取得後8年未満、最大2回まで)
- ★「研究活動スタート支援」受給者も応募出来ます。重複受給可能です。

複数応募

- 基盤A(5000万円) OR B(2000万円)+挑戦的研究(開拓OR萌芽)
- 基盤A(5000万円) OR B(2000万円)+学変(A)公募研究(最大2件)

手広いテーマ

斬新な発想

研究者ネットワーク構築

研究領域創成

重複回避&リスク分散

- 代表課題+ 分担課題

科研費の頂点を目指す

- 学変A領域代表(3億円)
- 基盤S(2億円)

- ✓ 着々と積み上げてきた実績
- ✓ ワールドワイドな研究者ネットワークの構築
- ✓ 他の研究分野との交流、引き寄せ



戦略・要請研究への接続

- 学術研究から、戦略、要請のそれぞれに研究テーマを振り分け、産学連携
 - ✓ シーズから出口へ、基礎・応用・研究と、テーマを発展



提出までのストーリー

応募に当たっては、以下の各資料等を参照してください。

①公募要領等の確認

- ✓ 応募する種目の [公募要領](#) は確認しましたか
- ✓ 応募する種目の [評定基準等](#) は確認しましたか



②研究者登録情報の確認 (e-Rad及び科研費電子申請システム)

- ✓ [e-Rad](#) で研究者登録情報が正しく登録されていますか
- ✓ e-RadのID・PWで [科研費電子申請システム](#) でログインできますか



③研究計画調書の 作成・提出

- ✓ 応募する種目の [公募要領\(別冊\)](#) は確認しましたか
- ✓ [科研費電子申請システム操作手引き](#) は確認しましたか

「公募要領」
日本学術振興会HP
<https://www.jsps.go.jp/j-grantsinaid/>

「e-Rad」
府省共通研究開発管理システム
<https://www.e-rad.go.jp/>

「科研費電子申請システム」
<https://www-shinsei.jsps.go.jp/kaken/index.html>

(日本学術振興会
科研費説明会
「資料2」より抜粋)

機関番号	研究種目番号	応募区分番号	小区分	整理番号
00000	00	0	00000	0000

令和X(20XX)年度 基盤研究(C) (一般) 研究計画調書

令和XX年XX月XX日
1版

新規

研究種目	基盤研究(C)	応募区分	一般				
小区分							
研究代表者 氏名	(フリガナ)						
	(漢字等)						
所属研究機関							
部 局							
職							
研究課題名							
研究経費 (千円未満の 端数は切り 捨てる)	年度	研究経費 (千円)	使用内訳 (千円)				
			設備備品費	消耗品費	旅費	人件費・謝金	その他
	令和X年度						
	令和X年度						
	令和X年度						
	令和X年度						
	令和X年度						
	総計						
開示希望の有無	審査結果の開示を希望する						
研究計画最終年度前年度応募	--						

基盤Cの調書を例に記入方法を説明します。

区分の選択に迷ったら「KAKENデータベース」
<<https://kaken.nii.ac.jp/ja/>> に研究対象、研究者名などを入れて検索してみてください。
また、少区分別の応募数・採択数は、
<https://www.jsps.go.jp/j-grantsinaid/27_kdata/index.html>
のページの「審査区分別配分状況」にデータがあります。

研究内容を具体的に表すような研究課題名（一般的、抽象的な表現は避ける。）を入力してください。インパクトも重要です。
「KAKENデータベース」でヒットする研究課題名も参考となります。

研究経費は各種目の上限額までの計画をお勧めします。通常、採択されても3割程度削減されてしまいます。

不採択の際に参考となるため、必ず「希望」にしてください。

氏名（年齢）	所属研究機関 部局 職	学位 役割分担	令和X年度 研究経費 （千円）	エフ ォ ー ト （%）
研究代表者 00000000 (00)				
研究分担者 00000000 (00)				
研究分担者 00000000 (00)				
合計 00 名		研究経費合計		

-2- 00000-00-000-000-0000

若手、研次、学
変A公募では、
研究分担者は設
定できません。

研究組織：役割分担、エフォート

教育や医療活動など、研究者としての全仕事時間を100%とした場合の、この研究での配分率です。他の研究者の分担する場合も考慮して、お決めください。

「役割分担」欄は研究実施計画に対する分担事項を中心に、研究代表者、研究分担者がどのように協力して研究を行うのか、それぞれの関連がわかるように記載してください。
単語ではなく「〇〇を統括」「〇〇の検討」など句になるようにお書きください。

令和7(2025)年度公募からe-Radに登録された以下の情報を科研費電子申請システムに連携します。

【科研費電子申請システムに連携する情報】

- ・応募中の研究費
- ・受入予定の研究費
- ・e-Rad外の研究費（民間財団からの助成金、企業からの受託研究費や共同研究費など）
- ・兼業や、外国の人材登用プログラムへの参加、雇用契約のない名誉教授等を含む現在のすべての所属機関・役職
- ・所属機関への研究インテグリティ誓約状況

e-Radの【研究者情報】において、研究インテグリティに係る情報を登録していない場合、応募が出来ませんので、ご注意ください。

代表者・分担者の別に関わらず、**すべてのメンバーが研究インテグリティに誓約していないと応募できません。**e-Radと科研費電子申請システムの連携には時間を要しますので、お早めの登録をお願いします。

1 研究目的、研究方法など

本研究計画調査は「小区分」の審査区分で審査される。記述に当たっては、「科学研究費助成事業における審査及び評価に関する規程」（公募要領参照）を参考にすること。

本研究の目的と方法などについて、4頁以内で記述すること。

冒頭にその概要を簡潔にまとめて記述し、本文には、(1)本研究の学術的背景や本研究の着想に至った経緯、研究課題の核心をなす学術的「問い」、(2)本研究の目的および学術的独自性と創造性、(3)関連分野の研究動向と本研究の位置づけ、(4)本研究で何をどのように、どこまで明らかにしようとするのか、(5)本研究の目的を達成するための準備状況、(6)本研究がどのような国際性（将来的に世界の研究をけん引する、協同を通じて世界の研究の発展に貢献する、我が国独自の研究としての高い価値を創出する等）を有するかについて具体的かつ明確に記述すること。

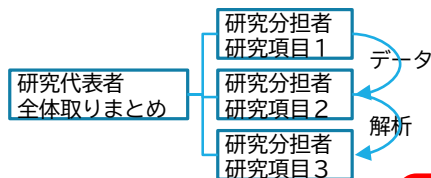
本研究を研究分担者ともに行う場合は、研究代表者、研究分担者の具体的な役割を記述すること。

（概要）

概要は10行程度で記述する。

（本文）

本文は、11ポイント以上（英語は10ポイント以上）の大きさの文字を使用する。



研究チームの体制がわかる図も審査員の理解を助けます

研究目的・研究方法①

○読みやすく書く

- ・見出しや箇条書き、余白等を使って読みやすく記載する。
- ・あまり太文字、アンダーライン、白黒反転などを使いすぎると本当の強調ポイントがわかりにくくなるので、ここぞという所に使う。
- ・図番、引用番号、の使い分け、整合に気を付ける。**数字や記号がずれていると審査員の理解が大きく妨げられます。**

※指示書きに従って書く。

○効果的な図を入れる

- ・審査委員の理解の助け（審査疲れの軽減）となる図を入れる。
- ※白黒印刷で審査されるため、必ず白黒印刷してみて、チェックする。

○研究計画をわかりやすく書く

- ・年度ごとに、何をどのように行うかを記載する。メルクマール、中間目標をおく。
- ・研究項目のなかでリスクのありそうなものは、Plan-Bも記載する。
- ・大物設備の購入時期、国内外の出張（調査・発表等）の発生年度、等と、予算を整合させ、それらの必要性を審査員に理解して頂けるようお願いします。

○研究代表者・研究分担者・研究協力者の役割を明記する。

- ・なお、研究協力者は、重複応募などの制約はないかわりに、研究費を主体的に使うことはできない。

○「国際性」に関して記載する 【基盤研究A・B・C】

- ・各分野で「国際性」の定義は異なることから、審査においては、できるだけ幅広い意味を持たせるとのこと。
- ・国際共同研究を実施していることのみをもって、国際性が高いと評価するものではない。（中身が肝心）
- ・『国際性（将来的に世界の研究をけん引する、協同を通じて世界の研究の発展に貢献する、我が国独自の研究としての高い価値を創出する等）以外の内容であっても、当該分野で「国際性」として評価されるものは積極的に評価されますので、その旨を申し添えるといいです。

研究目的・研究方法②⇒採用されるために③参照

1 研究目的、研究方法など

本研究計画調書は「小区分」の審査区分で審査される。記述に当たっては、「科学研究費助成事業における審査及び評価に関する規程」（公募要領参照）を参考にすること。

本研究の目的と方法などについて、4頁以内で記述すること。

冒頭にその概要を簡潔にまとめて記述し、本文には、(1)本研究の学術的背景や本研究の着想に至った経緯、研究課題の核心をなす学術的「問い」、(2)本研究の目的および学術的独自性と創造性、(3)関連分野の研究動向と本研究の位置づけ、(4)本研究で何をどのように、どこまで明らかにしようとするのか、(5)本研究の目的を達成するための準備状況、(6)本研究がどのような国際性（将来的に世界の研究をけん引する、協同を通じて世界の研究の発展に貢献する、我が国独自の研究としての高い価値を創出する等）を有するかについて具体的かつ明確に記述すること。

本研究を研究分担者とともに行う場合は、研究代表者、研究分担者の具体的な役割を記述すること。

項目の内容が、以前のものから変更になっていますので、古い調書そのままの流用はせずに、最新の様式への入力をお願いします。(1)～(6)の項目で記載すべき内容を減らす変更や、審査員を混乱させるような順番の変更は評価の妨げにありますので避けてください。

変更前

冒頭にその概要を簡潔にまとめて記述し、本文には、(1)本研究の学術的背景、研究課題の核心をなす学術的「問い」、(2)本研究の目的及び学術的独自性と創造性、(3)本研究の着想に至った経緯や、関連する国内外の研究動向と本研究の位置づけ、(4)本研究で何をどのように、どこまで明らかにしようとするのか、(5)本研究の目的を達成するための準備状況、について具体的かつ明確に記述すること。
本研究を研究分担者とともに行う場合は、研究代表者、研究分担者の具体的な役割を記述すること。

変更後(R7公募～)

冒頭にその概要を簡潔にまとめて記述し、本文には、(1)本研究の学術的背景や**本研究の着想に至った経緯**、研究課題の核心をなす学術的「問い」、(2)本研究の目的及び学術的独自性と創造性、(3)**関連分野**の研究動向と本研究の位置づけ、(4)本研究で何をどのように、どこまで明らかにしようとするのか、(5)本研究の目的を達成するための準備状況、(6)**本研究がどのような国際性(将来的に世界の研究をけん引する、協同を通じて世界の研究の発展に貢献する、我が国独自の研究としての高い価値を創出する等)を有するか**について具体的かつ明確に記述すること。
本研究を研究分担者とともに行う場合は、研究代表者、研究分担者の具体的な役割を記述すること。

研究目的・研究方法③

1 研究目的、研究方法など

本研究計画調書は「小区分」の審査区分で審査される。記述に当たっては、「科学研究費助成事業における審査及び評価に関する規程」（公募要領参照）を参考にすること。

本研究の目的と方法などについて、4頁以内で記述すること。

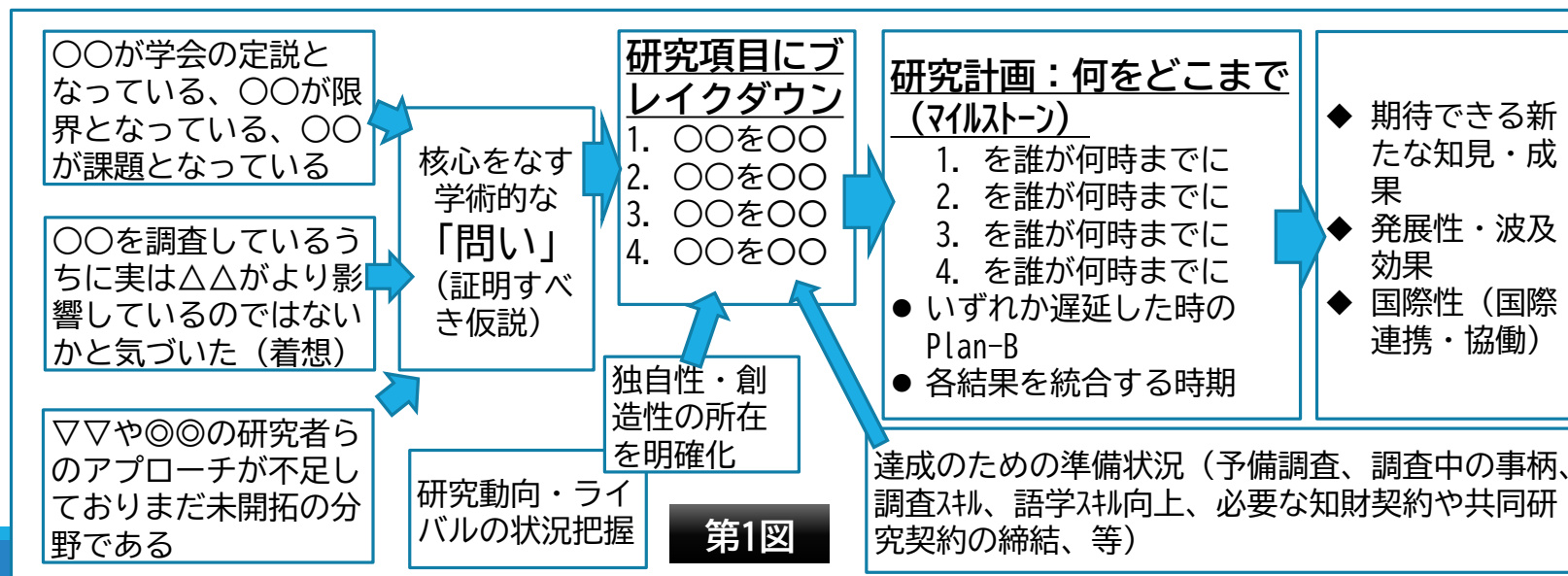
冒頭にその概要を簡潔にまとめて記述し、本文には、(1)本研究の学術的背景や本研究の着想に至った経緯、研究課題の核心をなす学術的「問い」、(2)本研究の目的および学術的独自性と創造性、(3)関連分野の研究動向と本研究の位置づけ、(4)本研究で何をどのように、どこまで明らかにしようとするのか、(5)本研究の目的を達成するための準備状況、(6)本研究がどのような国際性（将来的に世界の研究をけん引する、協同を通じて世界の研究の発展に貢献する、我が国独自の研究としての高い価値を創出する等）を有するかについて具体的かつ明確に記述すること。

本研究を研究分担者とともに行う場合は、研究代表者、研究分担者の具体的な役割を記述すること。

項目の内容が、以前のものから変更になっていますので、古い調書そのままの流用はせずに、最新の様式への入力をお願いします。(1)～(6)の項目で記載すべき内容を減らす変更や、審査員を混乱させるような順番の変更は評価の妨げにありますので避けてください。

グラフィカル・アブストラクト

理工系のテーマあるいは論理展開を重視した研究の場合は、第1図に、全体概要を一望できる図があると審査員の理解を助けます。（以下は、文字だけの表現ですので、適宜変形してください）



アイデア発想法（着想を説明する手段として利用できる）

アメリカの研究家ボブ・エバールが考案した、アイデア発想のためのフレームワーク。

著書：SCAMPER：Games for Imagination Development (1971)

SCAMPERとは以下の動詞の頭文字を並べたもの

1. **S**ubstitute（代用する）
手順、プロセス、成分、材料、感覚、時、場所を変えてみる
2. **C**ombine（組み合わせる）
正反対のもの、関連性がなかったものを組み合わせる、一部を統合する
3. **A**dapt（適応させる）
他分野の方法や成功例や失敗例をあてはめる、まったく違う使い方を手はめる
4. **M**odify（修正する）
様々な単位の量を加減する、一見不利と思われる方向に修正してみる
5. **P**ut to other uses（他の使い道を考える）
他分野に使えないか考える、環境や目標を違ったものに対して使い道を考える
6. **E**liminate（削減する）
増えすぎた要素、機能、作用、を削減・簡略・最小限にしてみる
7. **R**everse・**R**earrange（逆転させる/再編成する）
手順、プロセスを入れ替える、原因と結果を逆にする、上下や表裏や強弱を入れ替える

応募者の研究遂行能力及び研究環境

2 応募者の研究遂行能力及び研究環境

応募者（研究代表者、研究分担者）の研究計画の実行可能性を示すため、(1)これまでの研究活動（主要な研究業績を含む）、(2)研究環境（研究遂行に必要な研究施設・設備・研究資料等を含む）について2頁以内で記述すること。

「(1)これまでの研究活動」の記述には、研究計画に関連した国際的な取組（国際共同研究の実施歴や海外機関での研究歴等）がある場合には必要に応じてその内容を含めること。また、研究活動を中断していた期間がある場合にはその説明などを含めてもよい。

- ・ 充実した実験装置、研究設備、研究資料の蓄積
 - ・ 異分野の研究者との交流や議論が容易な環境
 - ・ 研究活動がしやすい支援制度やシステム
- などをお書きください。

国際的な取り組みが評価されます。業績のなかから、そのような取り組みをピックアップしていただきますようお願いいたします。

過去の研究業績の単なる羅列ではなく、応募する研究課題を実行できる根拠となる「研究業績」を記載します。

研究分担者について記載される場合は、

- ・ 研究計画が実行可能であると審査員に信じていただける、この研究に必要な、プロフェッションや環境を持っていること、
- を審査員にご理解いただけますよう、記載内容の充実をよろしくお願いいたします。

人権の保護及び法令等の順守への対応

3 人権の保護及び法令等の遵守への対応（公募要領参照）

本研究を遂行するに当たって、相手方の同意・協力を必要とする研究、個人情報の取扱いの配慮を必要とする研究、生命倫理・安全対策に対する取組を必要とする研究など指針・法令等（国際共同研究を行う国・地域の指針・法令等を含む）に基づく手続が必要な研究が含まれている場合、講じる対策と措置を、1頁以内で記述すること。

個人情報を伴うアンケート調査・インタビュー調査・行動調査（個人履歴・映像を含む）、提供を受けた試料の使用、ヒト遺伝子解析研究、遺伝子組換え実験、動物実験など、研究機関内外の倫理委員会等における承認手続が必要となる調査・研究・実験などが対象となる。

該当しない場合には、その旨記述すること。

- 該当しない場合は、単純に「該当しない」と記載してください。
- 簡易的なアンケート調査であっても、人権への配慮を記載してください。
個人情報への配慮はとても重要になっています。
＜記載例＞
本研究では、〇〇〇に関し、△△△を対象としたアンケート調査を実施する。アンケート調査の実施については、人権の保護および法令等を遵守する。個人情報はクラウド上では暗号化する。
必要に応じて、学習院大学の人を対象とする研究倫理委員会へ申請をし、承認を得る手続きを行う。
- 実験や採集を行う場所での法律・ルールに配慮する。保護区や聖地への立ち入りには正式な許可得て、現地のルールに従う。

研究経費とその必要性①

「設備備品費の明細」

【設備備品費】

- 1個または1組が10万円以上の機器、備品
- PC、タブレット、カメラ、ディスプレイ、換金性が高いと判断される物品は必要性をよく説明する
- 設置場所「**学習院大学**」または分担機関
※自宅には置けません



サーバー、ノートPC、デジカメなどは、審査員から目を付けられやすいので、「従来の100倍のデータを10倍の頻度で取得し処理するため、現有の〇〇の1000倍の能力がいる」「触れられない貴重な文献を高解像度で複写するため」など、なるべく必要性を定量化して説明する必要があります。設備は通常、最初に大物を買ひ、研究期間の間、使い倒すように使います。最終年度に高い設備を買うのは怪しまれます。

「消耗品の細目」

【消耗品費】

- 1個または1組が10万円未満の物品、部品
 - 図書、ソフトウェア（CD、DVD版も図書扱い）
 - 試薬、試験材等（消尽するもの）
- ※**図書や消尽する薬品等は10万円以上でも消耗品**

「消耗品の細目」必要性の表現

- 知識・技法等を獲得のための書籍
- 比較分析対象としてのバージョン違いの書籍の収集
- デジタルデータしかない文献を高精度印刷して詳細な比較・分析を行う



「人件費・謝金」

- 資料整理謝礼、実験補助アルバイト人件費、科研費研究員給与などを記載してください。（例：資料整理（内訳：〇人×〇時間×時給）
 - 翻訳や校閲を個人（学生アルバイト等）に依頼するときもここに記載となります。
 - アンケート頂いた方への謝礼
- 「人件費・謝金」必要性の表現
- 短期間でのデータ集計・分析・発表の必要性
 - ～の検討のためのアンケート調査
 - 論文投稿に必要なアブストラクトのネイティブチェック



「その他」

- サービスの提供を業者に頼む場合
- 印刷費、複写費、通信費、運搬費、会議費、都区内交通費、学会誌投稿料、業者に翻訳や校閲を依頼、等を、その事項ごとにしてください。
- 研究成果公開のため、ぜひご記入ください。



「その他」
研究に必要なサービスであることを説明

経費の必要性の表現

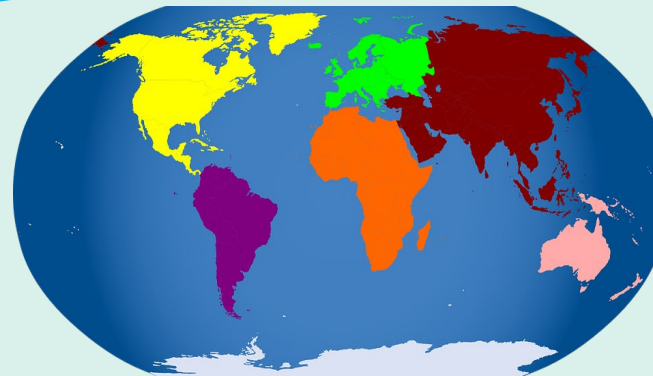
研究活動、研究計画と連携して、必要性を説明し、審査員への説得力を備えてください

研究計画	年度	初年度	次年度	次々年度
	研究内容	入力・実験・出力 実地調査・採取	データ整理・打合せ・論理構築	論文執筆（校閲投稿）・学会発表

「旅費」（国内・国外）

移動を伴う調査・学会発表など必要性を研究計画に連携して明記してください。

- デジカメ、ノートPC、三脚などの必要性も、研究計画と連携・整合してお書きください。
- 目的・場所・期間（例：資料収集・京都大学・3日間）に、経費（例：交通費・宿泊費・日当）等を事項ごとにしてください。
- 国としては積極的な成果の発信を求めています。論文投稿関連経費を計上してください。
- 参加学会名や開催地が未定でも、日本各地を巡るのであればいくつか候補を挙げて、経費を予測してご記入ください。



[illegible]

設備は通常、最初に大物
 を買い、研究期間の間、
 使い倒すようにして使
 います。
 最終年度に高い設備を買
 うのは怪しまれます。
 研究活動、研究計画と連
 携して、必要性を説明し、
 審査員への説得力を備え
 てください

設備備品費、消耗品費の必要性

研究経費とその必要性②

【設備備品費】

- ・ 1個または1組が10万円以上の機器、備品
- ・ パソコン、タブレット型コンピュータ、デジタルカメラ、ビデオカメラ、テレビ、録画機器等の換金性が高いと判断される物品

【消耗品費】

- ・ 1個または1組が10万円未満の物品
 - ・ 図書（※CD-ROM、DVD版も図書として扱う）
- ※その他10万円以上でも、部品、ソフトウェア、試薬、試験材等は消耗品として扱う。
電子辞書は図書として扱わない。

＜明細は具体的に記載してください＞

○設備備品費

機械器具の場合は、単に〇〇〇一式とするだけでなくその内訳も入力。

○消耗品費

書籍は全て消耗品です！

多数の図書、資料を購入する場合は「西洋中世政治史関係図書」のように、ある程度、図書、資料の内容が判明するような表現で入力してください。薬品、実験用動物、ガラス器具等その品名ごとに入力してください。

具体的に、設備備品費及び消耗品費の必要性・積算根拠について入力してください。なお、いずれかの年度において、「設備備品費」が年度全体の90%を超える場合、及び「消耗品費」で特に大きな割合を占める経費がある場合、必ずその必要性について入力してください。重要な備品や消耗品は、前半の「研究目的、研究方法など」にも必ず記載してください。

旅費、人件費・謝金、その他の必要性

研究計画との整合性が取れるように、具体的に記入してください。

目的・場所・期間（例：資料収集・京都大学・3日間）に、
経費（例：交通費・宿泊費・日当）等を事項ごとに入力してください。
参加する学会や開催地が決定できない場合でも、いくつかの学会の候補を挙げて、
経費をご記入ください。

資料整理謝礼、実験補助アルバイト人件費、科研費研究員給与などを記載してください。

印刷費、複写費、通信費、運搬費、会議費、都区内交通費、学会誌投稿料等を、その事項ごとに入力してください。

具体的に、旅費、人件費・謝金、その他の必要性・積算根拠を入力してください。いずれかの経費が年度全体の90%を超える場合及び「その他費」で特に大きな割合を占める経費がある場合、必要性について入力してください。重要な経費は、前半の「研究目的、研究方法など」にも必ず記載してください。

審査区分について

- “学問分野の体系化を趣旨としたもの”、“大学の学科・専攻や学会の分野などに基づいているもの”のいずれでもない。
- 固定化されたものでなく、学術研究の新たな展開や多様な広がりにも柔軟に対応できるよう設定。
(小区分は「〇〇関連」、中区分は「〇〇および関連分野」、大区分は分野名を付さずに記号(A~K)で表記)
- 応募者は自らの判断により、「応募する研究種目」に対応する「審査区分」を選択。

審査区分

大区分・中区分で審査される研究種目は特に、広い分野の審査委員で審査している（専門外の審査員がいる）ことを意識し、内容は専門分野が離れた審査委員にも理解しやすいように記載する。

基盤研究(S)に応募する場合、
大区分を選択して応募



応募者

基盤研究(A)、挑戦的研究
に応募する場合、
中区分を選択して応募

基盤研究(B)・(C)、若手研究
に応募する場合、
小区分を選択して応募

小区分の内容の例：
あくまで小区分の内容を理解する
ための助けとするためのもの

審査区分表（総表） 抜粋

大区分A	
中区分1：思想、芸術およびその関連分野	
小区分	
01010	哲学および倫理学関連
01020	中国哲学、印度哲学および仏教学関連
01030	宗教学関連
01040	思想史関連

審査区分表（中区分、大区分一覧） 抜粋

大区分A	
中区分1：思想、芸術およびその関連分野	
小区分	内容の例
01010	[哲学および倫理学関連] 哲学一般、倫理学一般、西洋哲学、西洋倫理学、 日本哲学、日本倫理学、応用倫理学 など
01020	[中国哲学、印度哲学および仏教学関連] 中国哲学思想、インド哲学思想、仏教思想、書誌 学、文献学 など

区分の選択に迷ったら
「KAKENデータベース」を参照して
ください。

<https://kaken.nii.ac.jp/ja/>

(日本学術振興会
科研費説明会
「資料2」より抜粋)

前回の審査結果を参考にしましょう

なお、様式が毎年変わるので前回の不採択調書の流用はせず、最新の様式に、指摘に従い強化した内容を流し込んでの作成をお願いします。

2月

科学研究電子申請システム

>> <<

[この通知のメニューへ移動する](#) | [お問い合わせはこちら](#)

審査結果開示

研究題目名	平成の研究基盤形成(一般)
期日	1000 計画策定システム・ネットワーク
分類番号	A
研究課題名	OXXXXXXXXXXXXXXXOXXXXXXXXXXXXXOXXXXXX

ご応募いただいた研究題目・分野・種目における上記研究課題の審査結果は次のとおりでした。

研究項目名	区 分	応募件数	採択件数	採択率
研究題目名	基礎研究(一般)	6,000件	300件	00.0%
分 科	技術系	200件	0件	00.0%
種 目	計算機システム・ネットワー	500件	0件	00.0%

あなたの応募された研究課題について、応募期間での審査結果は下記ののとおりです。

(※「基礎研究A」(一般)は、経団連に所属の審査委員が個々の研究課題について専門的見地から行う第1回審査と、第1回審査結果を基にして、国立大学等からの必要に応じて行われることを主軸として各課(評議員会)により決められた第2回審査(専門分野別の審査委員は「材料」「人文社会系」では同じく)単位で行われによって採択研究課題が決定されます。

配

1. 応募科目における採択されなかった研究課題全体の中でのあなたのおおよその順位

あなたはおおよそどの順位でいたか。

(参考①) おおよその順位

A	応募科目における採択されなかった研究課題全体の中で 上位20%以内位置していた。
B	応募科目における採択されなかった研究課題全体の中で 上位25%-50%以内に位置していた。
C	応募科目における採択されなかった研究課題全体の中で 上位60%以上に入らなかった。

2. 書面審査等における評価結果

第1回審査の本評定基準については、4段階の評定評価(A-D)への評定標準に基づいて「参考②」の評定基準参照。⑤の評定標準に基づいて「参考③」の評定基準参照により審査が行われています。あなたの計定標準値の審査結果は次のとおりでした。

(1)[評定要素ごとの結果]

あなたの研究課題の平均点及び当該項目において採用された研究課題の平均点

評 定 素 果	あなたの平均点	採用課題の平均点
④研究課題の学術的重要性・革新性	3.00	3.40
⑥研究方法・方法の革新性	3.00	3.40
⑦研究課題の独創性及び新規性	3.00	3.40
⑧研究課題の意義及社会的価値	3.00	3.40
⑨実施可能性及び研究成果の可能性	3.00	3.40
⑩研究計画・研究進捗状況に関する記載の明瞭性	3.00	3.40

※当該項目別に採用課題が無い場合は、採用課題の数値はなし(0.00)と表示いたします。

(参考②) ④～⑩の評定基準

評価区分	評 定 基 準
4	満たされている
3	ほぼ満ちている
2	やや不十分である
1	不十分である

(参考③) ⑪の評定基準

評価区分	評 定 基 準
4	実に見積りの算出が可能である
3	算出可能だが若干の不確実がある
2	算出可能な範囲はある程度限られている
1	算出可能な範囲はほとんどない
-	研究費見積りを行うのに必要な資料不足のため、別添の研究費見積りに基づき推定される

[illegible]

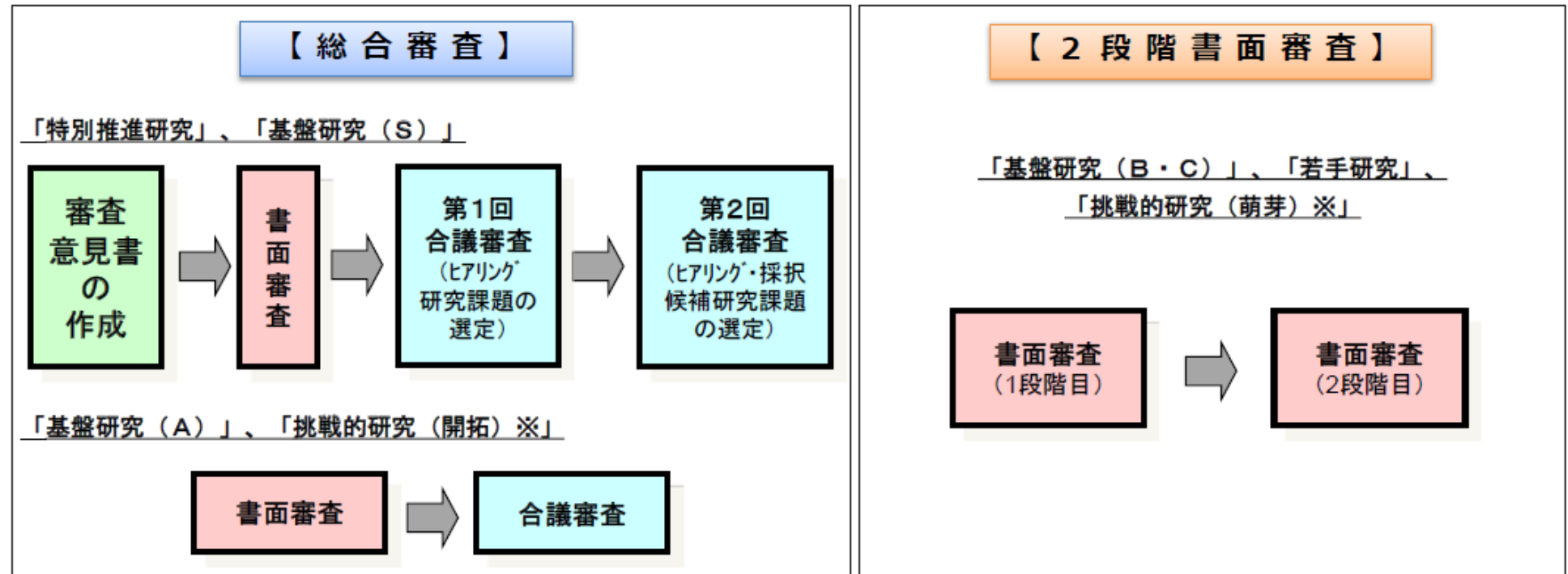
*を付けた審査員が多い項目は、特に強化が必要です。

採択された調書の平均点との差で、強化すべきポイントがわかります。取りこぼしなきよう強化をお願いします。

審査の流れ①

審査の流れ

科研費の審査は「書面審査を行った審査委員」が、他の審査委員の審査意見等を参照し、自身の審査内容を再検討できる審査システムとなっています。



※挑戦的研究は、必要に応じて事前の選考を行った上で、書面審査を行います。
なお、挑戦的研究（萌芽）の審査は、令和3(2021)年度公募以前は総合審査で行っていましたが、令和4(2022)年度公募からは2段階書面審査で行っています。

評価基準等

科研費の審査は各種目で定められた評価基準等に従って審査されますので、研究計画調書の作成に当たっては必ず評価基準等を確認してください。

https://www.jsps.go.jp/j-grantsinaid/01_seido/03_shinsa/index.html#u20230311174420



審査の流れ②

審査の流れから、審査員の苦勞を知り、認知ストレス／業務ストレスを軽減する調書の作成しましょう

ストレスフルな審査員

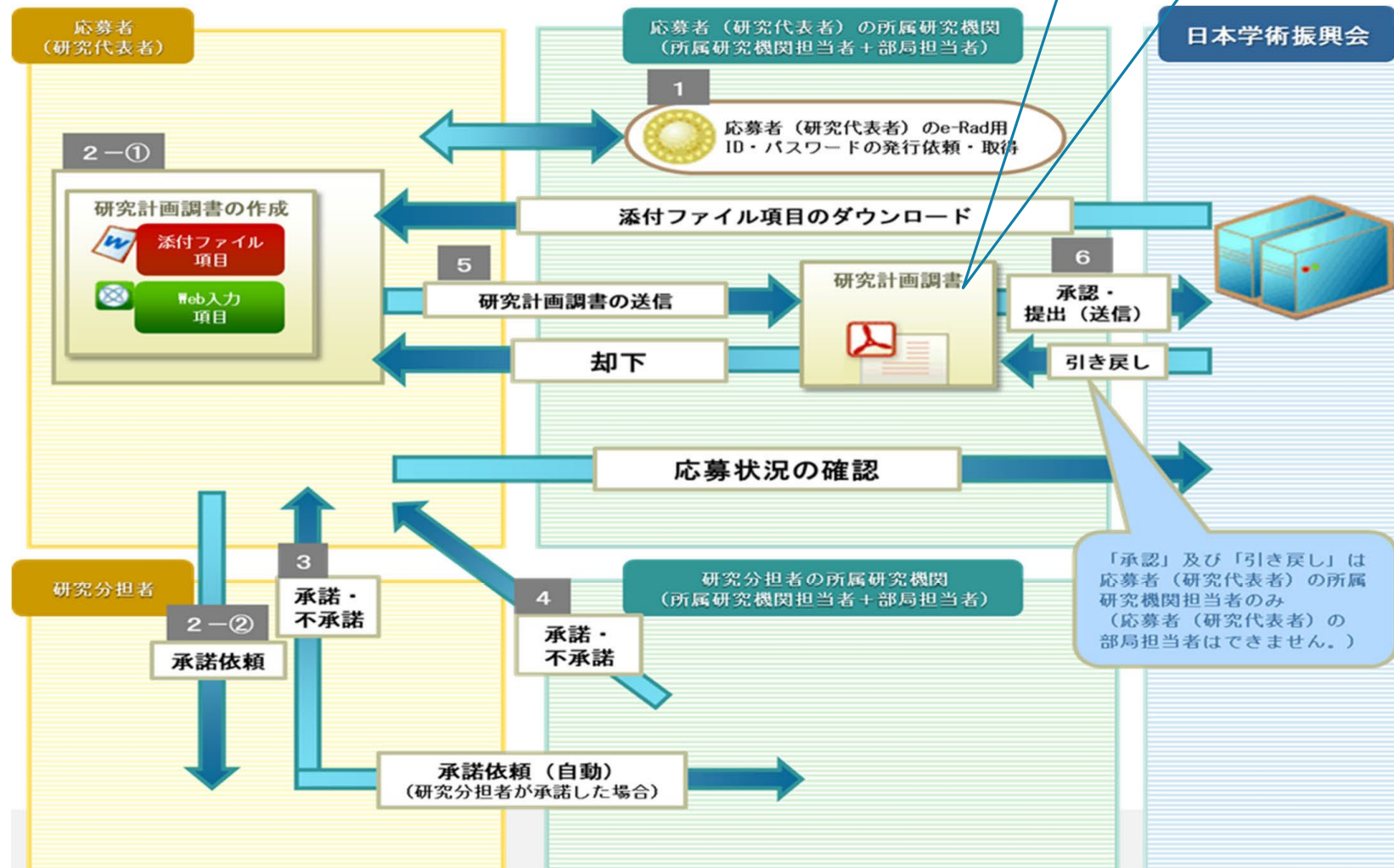
- 審査員をしていることは**秘密**で、相談できない
- 短期に**100通**以上の調書を採点
- 全ての研究課題の「審査意見」欄に、当該研究課題の**長所と短所**を中心とした審査意見を必ず記入してください。

- 一読して、明快な短所があるとわかる（評点1～2の範囲）と思われたら、再浮上する可能性はわずかになります。
- 評定要素ごとに、点数の取りこぼしが無いように、お願いします。

- 一読して研究の全貌が伝わると、審査員の認知ストレスが軽減されます。
- 「これは推せる」と思った調書で、長所として引用しやすい記述が強調表現されていると、さらにストレスが軽減されます。

【参考】電子申請システムでの操作① 概要

研究者からの「提出」により研究支援センターに届きます。その後でJSPSに送信しますので、JSPS締切に対して余裕が必要です。



令和7(2025)年度公募からe-Radに登録された以下の情報を科研費電子申請システムに連携します。

- ・応募中の研究費
- ・受入予定の研究費
- ・e-Rad外の研究費（民間財団からの助成金、企業からの受託研究費や共同研究費など）
- ・兼業や、外国の人材登用プログラムへの参加、雇用契約のない名誉教授等を含む現在のすべての所属機関・役職
- ・所属機関への研究インテグリティ誓約状況

e-Radの【研究者情報】において、研究インテグリティに係る情報を登録していない場合、応募が出来ませんので、ご注意ください。

e-Radと科研費電子申請システムの連携には時間を要しますので、お早めに登録をお願いします。



申請書の提出

→電子申請システムで提出。紙媒体の提出は不要。

個人で提出するのではなく、大学でまとめて提出するため、
学振の締切より早く、学内締切を設けます。

※電子申請システムで提出しても、直接学振には届きません。

学内締切	令和7（2025）年9月2日（火）
学振提出	令和7（2025）年9月16日（火）
学振締切	令和7（2025）年9月17日（水）16時30分